

複数のコミュニケーションメディアを対象としたディコンストラクションサービスの提案

関口 宰[†] 岡崎博樹[‡] 上林憲行[†]
 東京工科大学[†] 手仕事工房[‡]

1. はじめに

ある対象を解体し、それらのうち有用な要素を用いて、新たな別の何かを建設的に再構築する脱構築（ディコンストラクション）と呼ばれる概念が存在する。^[1]

近年、スマートフォンの普及により電子メールやSNSなどの複数のコミュニケーションメディアを並行的に24時間どこでも利用することが可能になっている。それらの利用密度が飛躍的に向上している。しかし、それらのサービスを扱う際にはコミュニケーションメディアの複雑な切り替えなどが必要となり、メディアに振り回されている状況が顕在化してきている。その解決方法として、メディア間の統合・連携サービスが存在するが、様々な限界や問題が生じている。

本稿では、代表的なコミュニケーションメディアであり世界的に有名なGmail, Facebook, Twitterを対象として、それらのメディアに共通したコミュニケーション情報要素が存在していることに着目し、メディア毎に依存した形式となっている情報を、脱構築の概念を適用し、メディアに依存しない情報要素に一端、解体・蓄積・再構築することで新しい価値を提供するディコンストラクションサービスを提案する。

2. ディコンストラクションサービス

図1は、提案するディコンストラクションサービス

ス（以下、DS）のアーキテクチャを示す。クラウドサービスとして提供される複数の非同期型コミュニケーションメディアサービスの各データベースからメディア非依存型のデータベースを生成し、目的に応じて、データベースを再構築して新しい価値を提供する機能を基本とする。

ただし、本サービスは、個々のユーザが自分自身固有の情報のみを扱うパーソナルサービスであり、コミュニケーションメディアに散財している自分自身に起因する交信ライフログデータベースとその活用のためのベースエンジンとして機能する。

サービスを構成している機能とデータベースは以下の通りである。

- A) 解体プログラム（図1-A）
メディア依存型情報をメディア非依存型情報に変換し、DSデータベースに格納。
- B) DSデータベース（図1-B）
DSフォーマットに従ったメディア非依存型の情報プールとして機能。
- C) 再構築プログラム（図1-C）
DSデータベースを入力としてユーザの要求に従い情報の再構成や生成を担う。
- D) 再構築データベース（図1-D）
再構築プログラムで変換・生成された情報を保存。
- E) ビジュアルライブラリ（図1-E）
再構築データベースの情報可視化ライブラリー群。

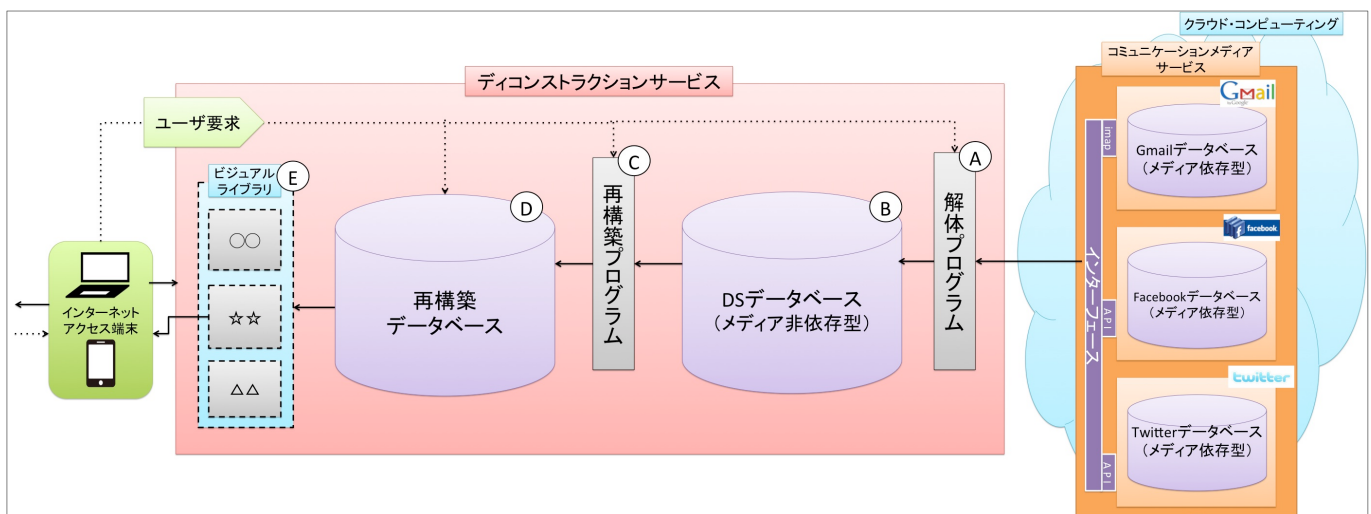


図1 ディコンストラクションサービスの構成図

“The proposal of the deconstruction service for plural communication media.”

Tsukasa Sekiguchi[†], Hiroki Okazaki[‡], Noriyuki Kamibayashi[†]

[†]Tokyo University of Technology, [‡]Teshigoto-Kobo

3. プロトタイプサービスの実現

プロトタイプの狙いは、非同期型コミュニケーションメディアの自分の情報を、発信ライフログとして蓄積して活用していくことである。その具体的な内容を以下に示す。

3.1 解体プログラム

解体プログラムは以下の通りである。(図2)

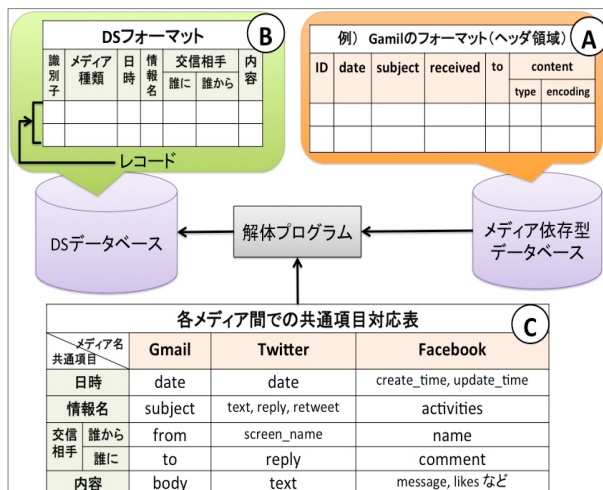


図2 解体プログラム

各メディアは、それぞれ固有のフォーマットで情報が管理されている。例えば、Gmail のフォーマットは、ヘッダ領域（date, subject, received, content-type など）とボディ領域で構成されている（図 2-A）。同様に、Facebook や Twitter も固有のフォーマットを有している。

一方、DS データベースは、各メディアの情報形式とは独立した DS フォーマット（図 2-B）に基づき管理する。

DS フォーマット内で扱われる基本情報の単位（レコード）は、Gmail ではメールシート、Facebook ではアクティビティ、Twitter では「つぶやき」に対応付けることとした。

DS フォーマットは、具体的には「日時」、「情報名」、「発信相手」（誰に発信したか、誰から受信したか）、「内容」の 5 つの項目の他に固有の「識別子」と情報元の「メディア種類」の 7 つの項目から構成される。

本サービスでは、同一ユーザが各コミュニケーションメディアで使用しているアカウント名の名寄せをしてユーザを同定させる必要があるために、解体時にアカウント同定プログラムを用意した。

また、各メディアのフォーマットの項目を対応表（図 2-C）に基づき DS フォーマットに変換する。

3.2 再構築プログラム

再構築プログラムは以下の通りである。(図3)

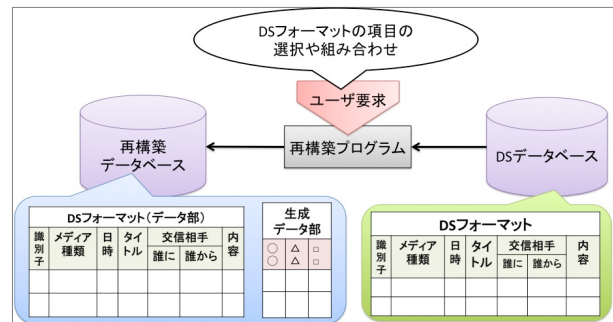


図3 再構築プログラム

DS データベースのフォーマットで蓄積されてきている発信ライフログを入力として、ユーザが要求した目的に沿った再構築処理や生成が行われる。その結果は、再構築データベースに格納される。

再構築データベースは、大きくは、DS データベースの抽出及び並び替えしたデータ部と、蓄積したログを統計的に処理して得られた生成データ部から構成される。

ユーザ要求は、DS フォーマットの項目（時間軸、発信相手、・・・）の組み合わせである。日時を選択した要求の場合では、DS データベースの情報が時系列順に並び替えが行われる。発信相手とメディア種類を組み合わせた要求の場合では、新たなフォーマットが生成され、「発信相手」と各メディアで発信した「回数」（Gmail 回数、Facebook 回数、Twitter 回数）が項目となる。その後、DS データベース内で発信回数がカウントされて生成したフォーマットで再構築データベースに格納される。

再構築データベースに格納された情報は、ビジュアルライブラリを通すことで、ユーザ要求に適した形で可視化することができる。例えば、「日時」で並び替えた情報はタイムラインで可視化することができる。

4. まとめ

本稿では複数のコミュニケーションメディアに蓄積している情報し、脱構築という概念を適用した解体・蓄積・再構築を行い新しい価値を提供するDSの提案とプロトタイプの開発を行った。

今後は他のサービスと組み合わせることで価値の幅を広げることが必要である。

参考文献

[1]Wikipedia 脱構築

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%84%B1%E6%A7%8B%E7%AF%89>